



『玄応一切経音義』 卷6(京都大学国語学国文学研究室蔵)

玄応一切経音義（玄応音義）は、玄応が、一切經の中の字句を取り上げ、音注や義注を施したもので、一切經を読むための辞書。7世紀中葉の成立。25巻。日本にも早く伝わり、漢和辞書として利用され、『玉篇』とともに、多くの文献に引用されている。日本編纂の辞書でも、重要な出典の一つとなっている。

写真の本は、承安4年頃から安元にかけて（1174 - 1175）、石山寺で書写された石山寺一切経本で、広島

大学や天理図書館などに数巻が所蔵されていることが知られていたが、最近、京都大学文学部図書室の中で、粗末な紙箱に収められている巻6と巻7が発見された。これまで、巻6、巻7については古鈔本が現存せず、古鈔本と系列の近い高麗版大藏経で代用してきたが、本書の出現によって、その欠を補うことができる。

木田 章義（B02班代表・京都大学）